

6月25日正午必着

明石春浦先生書



ふるみど 古井戸や蚊に飛ぶ魚の音くらし (与謝蕪村)

明石幸子書



ちをほらいこうをたきいささかみずからやる。 掃地焼香聊自遣。

はなをさいしたけをうえまふうりゅう。 栽花種竹儘風流 (郭用中)

清興。

茅屋住來久 山深人閉門
 草生垂井口 花落擁籬根
 入院將雛鳥 攀蘿抱子猿
 曾逢異人說 風景似桃源
 しほり出す 新茶つめたき 緑かな

(鈴鹿野風呂)

斬釘截鐵 (碧巖録)
 烟色春歸楊柳底
 雨香紅入杏花初

(朱希晦)

溪南書齋 (楊 発)

茅屋住してより久しく 山深くして 人門を閉ず
 草生じて 井口に垂れ 花落ちて 籬根を擁す
 院に入る 雛を將いる鳥 蘿を攀ず 子を抱く猿
 曾て異人に逢って説く 風景は桃源に似たり

溪南の書齋

楊 発

烟色春は歸る楊柳の底。
 雨香紅は入る杏花の初め。

斬釘截鐵

釘や鉄をたち切るように、一切の煩惱を切断するようす。

楊柳がけむって春のたち帰ったことが知られ、雨も香って杏の紅花が咲きそめた。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

石階蒼蒼薜華重
 喚取兒童賒村酒

杉松風薰雨霽初
 醉後拂却數行書

(良 寛)

石段青く こけの花 松に風吹き 雨はれる。
 子供をよんで 酒買わせ 酔って気ままに 書き流す。



林 采園先生書

半紙部規定課題A

6月25日正午必着

所 楚
枝 人
歌

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

6月25日正午必着

行書

楚人歌
竹枝

隸書

楚人歌
竹枝

明石春浦先生書

草書

楚人歌
竹枝

行草書

楚人歌
竹枝

ここ楚の地の人々が竹枝を歌うのをきけば さすらいのこの身、涙はこぼれて衣をぬらす
異郷にながく旅寓し 寒い夜、しきりに故郷に帰る夢をみる
一通の手紙を送ったが、返事も来ないうちに 数知れぬ木々の葉はすっかり飛び散ってしまった
これより南へ向かい、洞庭湖を過ぎて行けば 故郷のたよりはいつそ稀になるにちがいない

客中

于武陵

楚人歌「竹枝」

游子淚沾衣

異國久爲客

寒宵頻夢歸

一封書未返

千樹葉皆飛

南過洞庭水

更應消息稀

客中

于武陵

楚人 竹枝を歌い

遊子 涙衣を沾す

異國 久しく客と為り

寒宵 頻りに帰るを夢む

一封の書 未だ返らざるに

千樹 葉皆な飛ぶ

南のかた洞庭の水を過ぐれば

更に応に消息稀なるべし

(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より



廉請置百石卒史一人。鮑君造作百石吏舍。功垂无（窮）。
百石卒史一人を置かんことを廉請す。鮑君は百石の吏の舍を造作す。功は無（窮）に垂れ、

6月25日正午必着



百石（卒史一人）を置かんことを廉請す。



後漢・乙瑛碑

建碑が流行し、隸書の黄金時代といわれた後漢時代（二五～三二〇）には八分による隸書碑が数多くみられる。

乙瑛碑は永興元年（一五三）の建碑で、後漢の桓帝の時に魯の宰相乙瑛が申請して、百石卒史一人を置いて孔子廟を守らせることになったことの次第と、そのことに功績のあったものを顕彰する碑である。全十八行、一行四十字で、当時の公文書をそのまま刻み込んであり、文書研究の資料としても極めて大きな価値を持つ。現在、山東省曲阜の孔子廟の碑林にある。

時代的には「石門頌」（二四八）と「孔宙碑」（一六四）の間の建碑であり、書体においても「孔宙碑」ほどの流麗さはまだあまり見られないが、「石門頌」のような奔放な書体からは脱しており、後漢時代の隸書体の変遷を物語っているといえよう。

引き締まった結体に雄健な筆力、のびやかな横画と力強い波磔。腕を大きく動かして、波磔の終筆部分の筆圧のかけ方に注意しながら、リズムミカルな運筆を心がけたい。

（春濤）

百石卒史一人を置かんことを廉請す。鮑君は百石の吏の（舎を）造作す。



けい
経

さい
済

中学一年

雨宮春聲先生書



にゅう
入

ばい
梅

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



ぎゅう
給

すい
水

小学五年

榎戸春龍先生書



じつ
実

けん
験

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

6月25日正午必着



あま

ど

小学三年

藤田幸春先生書



た

うえ

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

た き 小学一年・幼年



森戸春濤書

てん き 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

足なみを整え元気
よく行しんしよう

小学五年

この湖の沿岸には旅
館やホテルが多い

小学六年

人間はともすれば安
易な道をとりがちだ

中学

夏が待ち遠しくて麦わ
ら帽子を買いました

一般(級位)

墨の白ひを立つる朝の書
若竹の風のそよぎに磨る墨の匂ひを立つる朝の手習(四賀光子)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

と	つ
り	ば
が	さ
	を
と	ひ
ぶ	ろ
	げ

幼年

か	つ
た	く
づ	え
け	の
ま	上
し	を
た	

小学一年

ふ	大
つ	つ
て	ぶ
き	の
ま	雨
し	が
た	

小学二年

う	川
を	原
食	で
べ	お
ま	べ
し	ん
た	と

小学三年

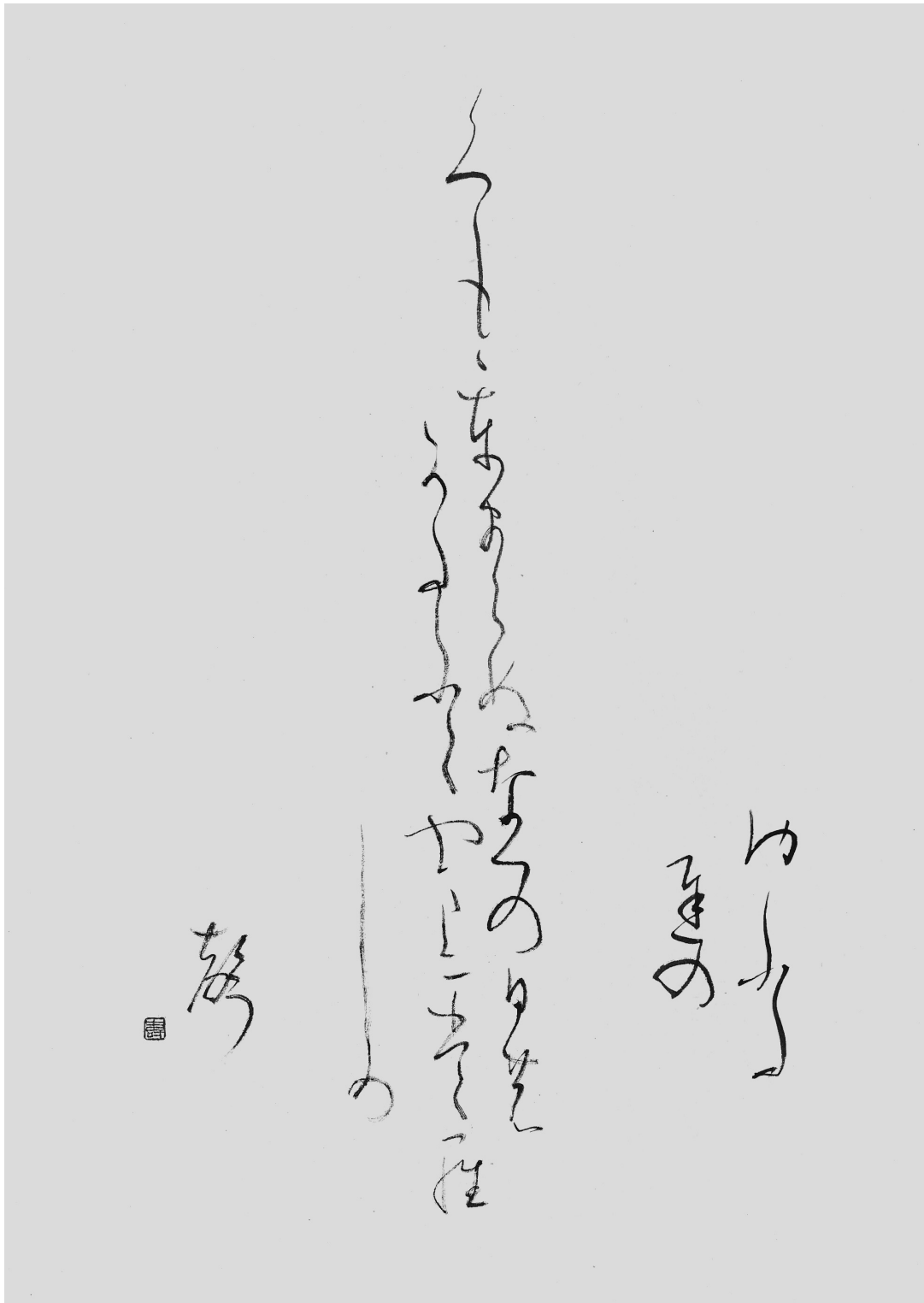
人	寺
が	院
お	に
ま	は
い	た
り	く
に	さ
行	ん
く	の

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ゆふだちの
 多遅
 くもゝとまらぬ
 久 東
 なつの日ひ
 農
 可多
 かたぶくやまに
 久 万二
 ひぐらしの聲こゑ
 悲久羅
 (新古今集・式子内親王)



岩本景楓先生書